

八坂神社

祭神

建速須佐之男尊(たけはやすさのこのみこと)

館山市中里字下台一七



- 宮司 浅倉良次
- 例祭日 八月九日
- 境内神社 稲荷神社
- 境内坪数 252坪

由緒

昔は祭神は「牛頭天皇」ともいわれ、中里八坂神社は天王様とも呼ばれています。



境内には、石棒や元文元年(一七三六)の棟札、安永二年(一七七三)の手水石や力石三個などが残されており、創建は不詳ながら、江戸時代中期からの史跡が多く残っています。社殿裏には、青面金剛像を刻んだ庚申塔や牛頭天皇の石宮、浅間様の小さな祠があり、氏子たちの信仰心の篤さが伺えます。

自慢の祭

およそ四十戸あまりの子どもからお年寄りまで区民総出で行われる中里の神輿祭は、毎年八月九日に神輿御魂入れを行い、十日には安房神社を目指して渡御が行われる。中里の神輿は、前を低くして走るのが特徴ですが、近年に担ぎ棒を檜の長いものに替えてさらに担ぎやすくなりました。

その昔は、八月九日に八坂神社を出発



安房神社一の鳥居前での勇壮な“もみ”

して安房神社へ向かい、その日は安房神社の御仮屋へ泊まり、翌日に安房神社と中里の二社の神輿で相濱の海岸へ御濱出へ行ったそうです。安房神社一の鳥居から二ノ鳥居までのおよそ参道が松の木だった頃は、その参道を一気に駆け抜けて、本殿につけたということです。現在では、十日だけの渡御

になっており、区内廻りでは中里の子ども神輿をお借りして大神輿と一緒に区内を回ります。そして安房神社へ参拝した後、区内に戻ってからは全部の家の前で神輿を高々とさしながら区内をくまなく回ります。



安房神社へ入祭



そして八坂神社へ戻ってきてからは、最後の盛り上がりで、集会場の前のおよそ200メートルの道を、多いときには十往復以上も走り、祭の余韻を楽しみます。子どもからお年寄りまでの地区民が一体となった、温かい自慢の祭りです。